

兵庫運河周辺地域のまちの将来像【概要版】

兵庫運河活性化会議

1. 「兵庫運河周辺地域のまちの将来像」策定の背景と目的

現在の兵庫運河は、1899年（明治32年）に完成した、日本最大級の運河として、国際港都神戸繁栄の礎となった歴史的遺産である。

2008年（平成20年）に兵庫運河が国土交通省による「運河の魅力再発見プロジェクト」の認定を受け、兵庫運河およびその周辺地域のまちづくりの方向性をとりまとめた「兵庫運河周辺地域の活性化に関する提案」が2009年（平成21年）5月に市長に提出された。

そして、同年7月に提案の実現に向けて「兵庫運河活性化会議」が設置され、“兵庫運河を核に水と緑にあふれ、人が集い、歴史の息づくまちづくり”を基本コンセプトに取り組みを展開しており、2010年（平成22年）には新川運河キャナルプロムナードの改修、及び、2011年（平成23年）には浜山小学校前プロムナードの整備が行われ、また、2009年（平成21年）より、兵庫運河周辺の景観のルールづくりが検討されている。

神戸市では、2011年（平成23年）2月に策定した「第5次神戸市基本計画 神戸づくりの指針」において、この兵庫運河周辺を「神戸のもつ特性を活かしその魅力に磨きをかけ、神戸のにぎわいや活力の創造を先導するリーディングエリア」のひとつに位置づけ、住み、働き、訪れる人にとって魅力的な世界に貢献するものづくりのまちの創出を目指している。

一方、2012年（平成24年）には、NHK大河ドラマ「平清盛」の放映により、当地域も注目が集まり、歴史館の開館、兵庫運河の歴史クルーズや清盛茶屋等の取り組みにより、観光客等来街者も増え、さらには、中央卸売市場本場西側跡地の事業コンペや中部下水処理場跡地の将来的な活用についての検討も始まり、まちの状況が動き始めている。

そこで、兵庫運河周辺地域のさらなる活性化に向けて、地域住民・地域企業・行政がまちづくりの具体的なイメージを共有し、それぞれの役割のもと協働による取り組みを一層進めていくため、まちを取り巻く現状や課題を整理し、今後取り組むべきまちづくりの方向性も含め、「兵庫運河周辺地域のまちの将来像」をとりまとめる。

2. 「兵庫運河周辺地域のまちの将来像」のとりまとめの経過

地域住民・地域企業・学識経験者・行政により、平成21年に設置された「兵庫運河活性化会議」では、平成23年度より、各地区を代表した委員の方々を中心に、まちの将来像に関わる地域提案を取りまとめる部会を設置した。さらに、浜山・明親・和田岬地区にお住いのみなさまとまちの現状と課題について情報を共有し、まちの将来について話し合うことを目的にワークショップ（意見交換会）を開催し、その参加者の意見をふまえて、『兵庫運河周辺地域のまちの将来像』をとりまとめた。

将来像（案）をとりまとめた後、各地区の地域福祉センター等やホームページで資料閲覧を行い、また将来像（案）の概要版を浜山・明親・和田岬地区の各戸に配布して、周知を図った。あわせて将来像（案）の意見募集を行い、24通59件の意見があった。意見及び意見に対する考え方については、将来像とともに市のホームページで公表するとともに、『兵庫運河まちづくりニュース』で報告を行った。



兵庫運河活性化会議



兵庫運河活性化会議部会



まちの将来像について考える
ワークショップ（意見交換会）

3. 兵庫運河周辺地域の現状と課題

◆現状

兵庫運河はかつて貯木場やはしけ運搬の水路等として利用されていたが、現在では、港湾物流活動としての利用も限られており、水上スポーツの場などとして新たな活用が始まっている。

運河周辺には、神戸港開港以前の「大輪田泊」や「兵庫津」にまつわる数多くの歴史観光資源が点在し、新川運河キャナルプロムナードや浜山小学校前プロムナード、兵庫津の道が整備されており、現在、兵庫運河およびその周辺では、キャナルレガッタ等の水上スポーツイベントや兵庫運河祭、和田岬砲台ウォーク（現在は砲台が改修中のため休止）などの歴史資産を活用したイベントが行われている。

また、世界に誇るものづくりのまちとして発展し、現在も最先端の技術を有する産業が集積していることも、当地域の特徴のひとつである。

さらに、集客施設としてノエビアスタジアム神戸の他、中央卸売市場本場西側跡地、中部下水処理場など将来的な活用が期待される大規模な敷地について、事業コンペやワークショップにより、その活用方法について検討がなされている。

神戸市では、「デザイン都市・神戸」を文化及び豊かな想像力をデザインの視点で、継続的に成長し続ける創造都市としており、その一環として、2009年10月には、UNESCOの国際ワークショップ「WAT神戸（WAT：Workshop_atelier_terrain）」が開催され、JR和田岬線の線路上に軸を作り、既存の空地や公園を利用して緑のネットワークを構築することで、分断された地域をつなごうという計画案が1位表彰された。

一方、安全・安心の確保の点では、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災以降、神戸市では、兵庫県が公表した「津波被害警戒区域図（暫定）」をもとに、津波被害警戒区域において、地域津波防災計画の見直し・策定を進めており、当地域の明親地区、和田岬地区、浜山地区で津波防災マップづくりが始まっている。

◆課題

兵庫運河水面の利活用にあたっては、現在、浜山小学校前にて、レガッタやボートでの探検ツアー等の活動が行われているが、兵庫運河の水面利用の促進の観点からは、JR和田岬線の旋回橋の部分において、橋脚や桁高が改善されることにより、活動範囲の拡大が期待される。また、住吉橋のたもとで行われている真珠貝プロジェクトの活動が、兵庫運河における環境教育の拠点として活動を展開していくことにより、兵庫運河の親水性の向上にもつながる。

回遊性の向上にあたっては、これまでに、新川運河キャナルプロムナードの改修、および浜山小学校前プロムナードの整備が実施され、今後、その間をつなぐことによる兵庫運河沿いの回遊性の向上が望まれるが、その東西のプロムナード整備については、和田岬線の横断が一つの課題となっている。また、当地域においては南北動線の回遊性の向上、特に、歩行者や自転車交通の運河横断が大きな課題でもある。

周辺資源の活用にあたっては、中央卸売市場や中部下水処理場の跡地活用の検討が始まっており、こうした集客拠点と兵庫運河の連携や、地域に点在する歴史資源などの魅力発信を強化していく必要がある。また、JR和田岬線については、現在、主に周辺企業の従業員の足として、平日は朝7本、夕方10本（土曜は朝6本、夕方6本 日曜は朝1本、夕方1本）運行されているが、昼間は運行されていないため、地域住民は利用ができない状況である。



運河沿いの企業



0系新幹線と特急こだまの展示



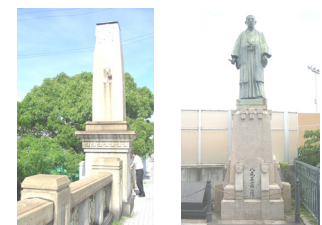
兵庫津の道



兵庫大仏



新川運河キャナルプロムナード



大輪田橋 親柱 八尾善四郎像



JR 和田岬線 旋回橋

4. まちづくりの基本コンセプトとまちづくりの視点

まちづくりの方向性を明らかにするための基本コンセプトを定め、それを具現化する個々の取り組みを考えるための視点およびテーマを設定し、兵庫運河周辺地域において、2つの空間軸と5つのゾーンを設定した。

◆基本コンセプト

“兵庫運河を核に水と緑にあふれ、人が集い、歴史の息づくまちづくりをめざす”

(親水・環境) (集客・回遊) (歴史・文化)

◆まちづくりの3つの視点

①安全性の確保

老朽化した施設の改修や、自然災害に対する備えを進め、運河を利用する人びとが安全・安心に集い、過ごすことのできる環境を確保する。

②アメニティの向上

運河周辺における回遊性の向上や、運河へのアクセス性の向上により、運河周辺地域での人の流れを活性化し、運河をめぐる新たな移動軸を創出する。

③にぎわいの創出

レガッタ大会など、イベントの開催による情報発信や、周辺に点在する史跡、ものづくりの拠点など地域資源の活用により、運河周辺地域の特性をPRし、内外の人びとの興味を喚起する。

◆まちづくりの3つのテーマ

兵庫運河のさらなる活用
(水面利用の促進、親水性の向上)

回遊性の向上
(水面における回遊性と運河沿いの回遊性)

周辺資源の活用
(歴史資源、ものづくり現場、中央卸売市場や中部処理場の跡地活用)

◆兵庫運河周辺地域の2つの空間軸と5つのゾーン ※【図1】参照

◎兵庫運河周辺地域の2つの空間軸

- ①水の軸（兵庫運河）
- ②眺望の軸（和田岬線）

◎兵庫運河周辺地域の5つのゾーン

- ①歴史ゾーン
- ②スポーツ・レクリエーションゾーン



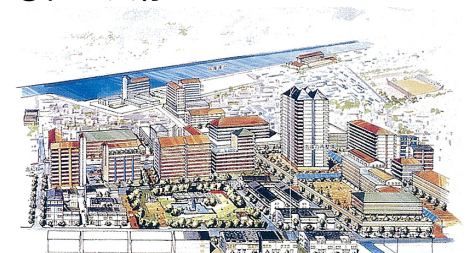
③にぎわいゾーン



④ものづくりゾーン



⑤住工共存ゾーン



5. まちづくりのテーマにおける取り組み

まちづくりの基本コンセプトにより、3つのテーマのもと、以下のとおり取り組みの方向性を示す。

①兵庫運河のさらなる活用 *水面利用の促進 *親水性の向上

かつて貯木や水運に利用されていた兵庫運河であるが、産業構造の変化などにより、運河水面の利用者、利用形態も様変わりしており、浜山小学校前では「兵庫キャナルレガッタ」が、住吉橋周辺では「兵庫運河 真珠貝プロジェクト」が、新川運河では「兵庫運河祭」などが開催されている。

今後、安全性を確保しながら運河の水面利用を促進するとともに、運河の水環境の向上に努め、運河を環境教育の場として活用するなど、さらなる運河の魅力を高めていく。

②回遊性の向上 *水面における回遊性 *運河沿いの回遊性

運河周辺の人の流れを活性化するために、運河へのアクセスを高めるとともに、兵庫運河全体の回遊性を高めていく。

③周辺資源の活用 *歴史資源 *ものづくり現場 *中央卸売市場や中部下水処理場の跡地活用

兵庫運河周辺に点在する歴史資源や産業資源、集客施設を兵庫運河とネットワークし、兵庫運河周辺地域の魅力アップに取り組みるとともに、奈良時代にさかのぼるこの地域の歴史を発信していく。

また、中央卸売市場や中部下水処理場の跡地活用にあわせた、にぎわいづくりを行っていく。

上記の方向性をふまえ、水の軸と眺望の軸について、具体的な将来イメージを【図2】に示す。

6. 今後の展開

兵庫運河周辺地域のまちの将来像として、「兵庫運河を核に、水と緑にあふれ、人が集い、歴史の息づくまちづくりを目指すこと」を基本コンセプトに、「安全性の確保」、「アメニティの向上」、「にぎわいの創出」の3つの視点でまとめた。

また、将来像のさらなる具体化のため、テーマを、「兵庫運河のさらなる活用（水面利用の促進、親水性の向上）」、「回遊性の向上（水面における回遊性と運河沿いの回遊性）」、「周辺資源の活用（歴史資源、ものづくり現場、中央卸売市場や中部処理場の跡地活用）」に絞込み、2つの空間軸と5つのゾーニングを定め、3つのテーマに基づいて取り組みの方向性や具体的な将来イメージを示してきた。

この将来像のとりまとめにあたっては、ワークショップの実施やまちづくりニュースの発行、意見募集を通じ、地域住民に広く周知・PRし、様々な意見を聴くことができた。その検討において、兵庫運河周辺の回遊性の向上や兵庫運河における水面利用を図るためには、和田岬線のあり方が大きく関わることが判明した。和田岬線に関して「イベント列車の運行や昼間運行」「中間駅の新設」などの意見に対しては、JR 西日本と協議を行ったが、現在の利用実態から利用者の大幅な増加は見込めず、また大幅に増加する費用が課題となることから、それらを前提とした『まちの将来像』を作成するには至らなかった。また、それ以外にも「運河の水面利用促進や回遊性の向上を図るには旋回橋が邪魔」、「旋回橋は歴史的構造物であり観光資源として利用すべき」など、和田岬線については様々な意見があった。こうしたことから、この将来像では運河周辺の回遊性の向上と運河の水面利用を促進し、賑わいを創出するというまちづくりの方向性に沿った将来イメージとして、和田岬線を廃線した場合のイメージを示したものととどめた。ただし、和田岬線のあり方は関係する企業や利用者など様々な関係者がいる中で地域住民だけで決定することは難しく、和田岬線のあり方について結論付けない。

運河の水面利活用については、レガッタや真珠貝プロジェクトなど既存の活動を展開し、安全性の確保や水環境の向上を図りながら、さらなる運河の魅力を高めていく。

この「まちの将来像」に基づいた兵庫運河周辺地域のさらなる活性化に向けては、兵庫運河周辺地域に係る地域住民・地域企業・行政がまちづくりのイメージを共有し、それぞれの役割のもと、共に協力しながら継続的に取り組む「協創」の取り組みによって、はじめて実現が可能となるものである。今後は、この協創による取り組みを推し進め、兵庫運河周辺地域が魅力と活力に満ちた地域となるよう実現に向けた取り組みを早期に進めていく必要がある。

兵庫運河活性化会議 事務局

企画調整局企画調整部調整課

TEL : 078-322-5031

兵庫区役所まちづくり推進部まちづくり課

TEL : 078-531-0033

平成25年3月初版発行

平成25年12月第2版発行

神戸市広報印刷物登録

平成25年度 第277号 広報印刷物規格 B-1 類



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBE

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

【図1】兵庫運河周辺地域のまちづくりの基本方針

100m 200m 500m 1,000m

住工共存ゾーン

ものづくりゾーンを支える町工場と住宅が共存し、子どもから高齢者まで安心して快適に暮らせる住みよいまちづくりを進める。



歴史ゾーン (清盛塚周辺)




清盛塚、兵庫大仏、柳原蛭子神社をはじめとする、地域の歴史資源が点在するゾーンであり、それらを兵庫津の道がつないでいる。平成24年に大河ドラマ「平清盛」が放映されたことから、地域外から多くの観光客が訪れている。これらの歴史資源を巡る回遊ルートとして、さらには、兵庫運河やにぎわいゾーン、スポーツ・レクリエーションゾーンへと誘うアクセスルートとして、地域全体のサイン計画、歴史を感じるストリートファニチャー等景観面にも配慮する。

にぎわいゾーン (本場西側跡地)

中央卸売市場本場に加えて、本場西側跡地の活用により、ノエビアスタジアム神戸と並ぶ当地域の集客拠点としての整備を進める。本場西側跡地の活用に合わせて、運河沿いにおいては、人が憩い、楽しめる施設やプロムナードが整備され親水性が高まることから、運河の水面も含めた活用により、にぎわい空間を創出する。

眺望の軸 (和田岬線)



六甲山系の山並みへの眺望が確保され当地域の中心を南北に横断する和田岬線は、主たる眺望軸として位置づけられ、和田岬線が廃線となった場合、兵庫運河の南北方向の歩行者や自転車の回遊性の向上を図るとともに、散策やジョギングなどを楽しむ新たな憩いの空間を創出することが望まれる。また、JR兵庫駅から兵庫運河、ノエビアスタジアム神戸、兵庫駅南公園から御崎公園、和田神社へとつながる地域の緑のネットワークが形成されるとともに和田岬線のプロムナード化やさらなる運河沿いプロムナード化により、地域の分断感の解消が図られる。さらに、JR兵庫駅や地下鉄海岸線の各駅を起点に、兵庫津の道や平清盛ゆかりの史跡など歴史資源やものづくり産業に関する資源をつなぐ歴史街道に、また、水と緑あふれるウォーキングコースとなることで周辺のにぎわい拠点と連携した観光・集客による活性化が望まれる。

スポーツ・レクリエーションゾーン





レガッタ (浜山小学校前)

当地域の集客拠点であり、スポーツ・レクリエーションの核となるノエビアスタジアム神戸、及びレガッタなど水上スポーツの拠点である浜山レガッタコースを中心に、和田神社、御崎公園、中部下水処理場跡地など、緑の軸を一体的につなぐことにより、市民だけでなく、地域内外の方も楽しめる空間とする。

水の軸 (兵庫運河)

都心ウォーターフロントと連続する「兵庫運河ウォーターフロント」の中心を横断する兵庫運河は、当地域の主要な『水の軸』として、親水性と回遊性の向上をめざし、新たな活用が望まれる。レガッタなどの水上スポーツ・レクリエーションや兵庫運河祭などのイベントが行われる親水空間として、水面利用のルールをつかった上で、その利用の促進を図る。また、遊覧船を活用するなどの水面の回遊性の向上を進めるとともに、運河沿いのプロムナードの整備などにより、水辺の回遊性の向上を図る。

ものづくりゾーン



産業景観



産業観光

三菱重工業、三菱電機、川崎重工業、富士通テンなど世界に誇るものづくり産業の振興を図るとともに、その技術を広く世界へ発信する産業観光を推進する。



【図2】兵庫運河周辺地域のまちの将来像のイメージ

運河支線の北側突当り



運河の支線の北側突当りに親水広場とし、運河を背景とした円形ステージでは、音楽祭等のイベントを開催することにより、運河北端のにぎわい拠点とします。ポンツーンを設ければ、ボート等で運河の支線を上ってきた人も親水広場が利用できるようになり、兵庫運河における水面利用の促進、回遊性の向上が図れます。また、川崎重工の引込線では搬出される新造車両を眺めることにより、“ものづくりのまち”兵庫を体感することもできます。

運河支線



運河の支線をボート等が回遊することにより、水面利用の促進を図るとともに、地域の魅力資源である川崎重工の0系新幹線やこだまの展示を運河からも眺めることができます。また、つた系植物による護岸の緑化などにより、運河の背景としてのみどりの充実が図られます。

高松橋からの眺望



高松橋は兵庫運河に架かる橋の中でも、絶好の眺望ポイントのひとつです。御崎橋方面の兵庫運河と運河の支線がつながる開かれた運河の景観、その背後に広がる市街地と六甲山系の山並みへの眺望、そして、水面利用が促進されれば、ボートや遊覧船が航行する風景が望めます。また、時には、正面の川崎重工から新造車両をクレーンにより台船に搬出する、兵庫運河ならではのワンシーンを見ることが出来ます。運河沿いの不二製油の敷地には、桜並木が植樹されており、春には運河に彩りを添えます。



和田岬線巡回橋付近



当地域の課題である南北方向の回遊性の向上と運河における水面利用の促進のため、和田岬線がプロムナード化され、巡回橋が人道橋などに架け替えられれば、運河の一部を拡幅することができ船の航行も可能となります。また、これまでに整備された浜山小学校前プロムナードと新川運河チャンネルプロムナードをつなぐようプロムナードを整備すれば、運河沿いの回遊性の向上が図れます。

住吉橋周辺



すでに整備された浜山小学校前プロムナードと新川運河チャンネルプロムナードをつなぐプロムナードを既存の道路空間を活用して整備することにより、運河沿いの回遊性（東西方向）の向上が図られます。プロムナード沿いには、真珠貝プロジェクトが活動するポンツーンがあり、ここを拠点に、水辺における環境教育を推進します。また、遊覧船の運航を推進し、運河水面における回遊性の向上を図ります。

新川橋を通る遊覧船



NHK大河ドラマ「平清盛」の放映に合わせて中突堤より運航された遊覧船は、この朱色の新川橋を通り、兵庫運河に入ってきました。平成24年に架け替えられた新川橋は、景観や歴史に配慮されたデザインで、外海より兵庫運河へといざなう玄関口となっています。

和田岬線のプロムナード化



枕木を活用した花壇や踏切をイメージしたストリートファニチャー、駅の表示板をモチーフとした案内サイン、線路をイメージした舗装等により和田岬線の面影を感じられるプロムナードとします。地域の南北移動の動線としてだけでなく、散歩やジョギング、サイクリングを楽しむ人、ベンチで休憩する人など、地域住民（市民）の憩いの場となることが期待されます。沿道には、桜等の並木や四季折々の花を楽しむ花壇を配し、六甲山系の山並みへの眺望とあわせて、当地域の緑の軸となります。

新川運河チャンネルプロムナード



改修された新川運河チャンネルプロムナードでは現在、兵庫運河祭が開催されていますが、クラフト作家やカフェなどが出店する“パラソルショップ”やフリーマーケット、移動販売車等によるイベント開催など、プロムナードのさらなる活用を図り、対岸の商業施設と連携したにぎわいづくりを進めていきます。

新川運河両岸



中央卸売市場本場西側跡地では、商業施設を核としたにぎわい拠点としての整備が今後進められます。隣接する中央卸売市場と連携した食文化の発信、新川運河を活かしたプロムナードやオープンカフェ等による新たな親水空間の創出等、中央卸売市場本場西側跡地の商業施設と新川運河チャンネルプロムナードと一体となったにぎわい拠点づくりを進めていきます。